

# 致死的下痢症の集団発生酪農場における複数種の クリプトスポリジウムの分子同定及び その感染動態と清浄化対策

河合愛美<sup>1)</sup> 林 みち子<sup>1)</sup> 高橋和瑛<sup>2),3)</sup> 芝原友幸<sup>3),4)</sup>  
 笹井和美<sup>3)</sup> 松林 誠<sup>3)†</sup>



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/2/76\\_e18/article-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/2/76_e18/article-char/ja)

- 1) 石川県南部家畜保健衛生所 (〒 920-3101 金沢市才田町戊 324-2)
- 2) 北海道農業共済組合上士幌家畜診療所 (〒 080-1408 河東郡上士幌町東 2 線 347-3)
- 3) 大阪公立大学大学院獣医学研究科 (〒 598-8531 泉佐野市りんくう往来北 1-58)
- 4) 国研農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門 (〒 305-0856 つくば市観音台 3-1-5)

(2022 年 6 月 10 日受付・2022 年 11 月 10 日受理・2023 年 2 月 7 日公開)

## 要 約

2020 年に石川県の 2 農場で下痢症を呈した子牛が相次いで死亡した。種々の検査及び病理解析の結果、クリプトスポリジウムによる感染が原因である可能性が考えられた。18S rRNA 及び Actin 遺伝子領域を標的とした PCR 及び Multiplex-PCR を実施したところ、*Cryptosporidium parvum* の 2 つの遺伝子亜型による混合感染であることが分かった。これら 2 種の遺伝子亜型による混合感染は国内初めての報告である。同農場で飼育されていた他個体の調査では、感染は子牛に限られ、さらに *C. bovis* 及び *C. ryanae* が検出された。飼育環境の調査では子牛を飼育していた床の敷料のみから本原虫が検出され、汚染エリアを熱湯及び石灰乳の塗布により対策を実施したが、短期的には下痢を発症する頭数が減少し効果がみられたものの、清浄化には至らなかった。

—キーワード：クリプトスポリジウム症, *Cryptosporidium parvum*, 下痢症, 混合感染, 対策。

----- 日獣会誌 76, e18~e27 (2023)